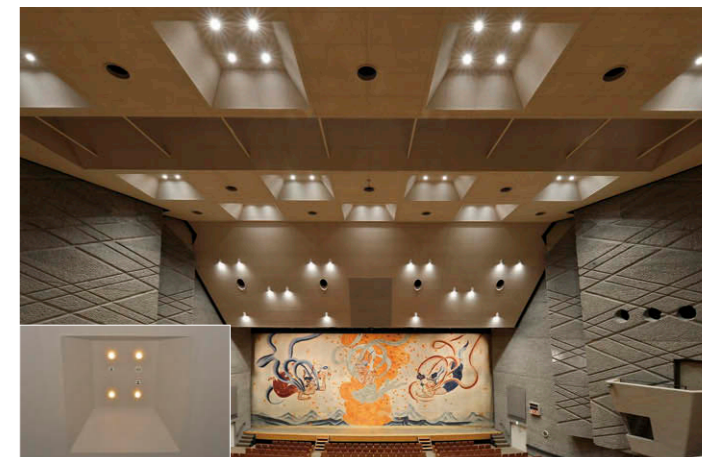
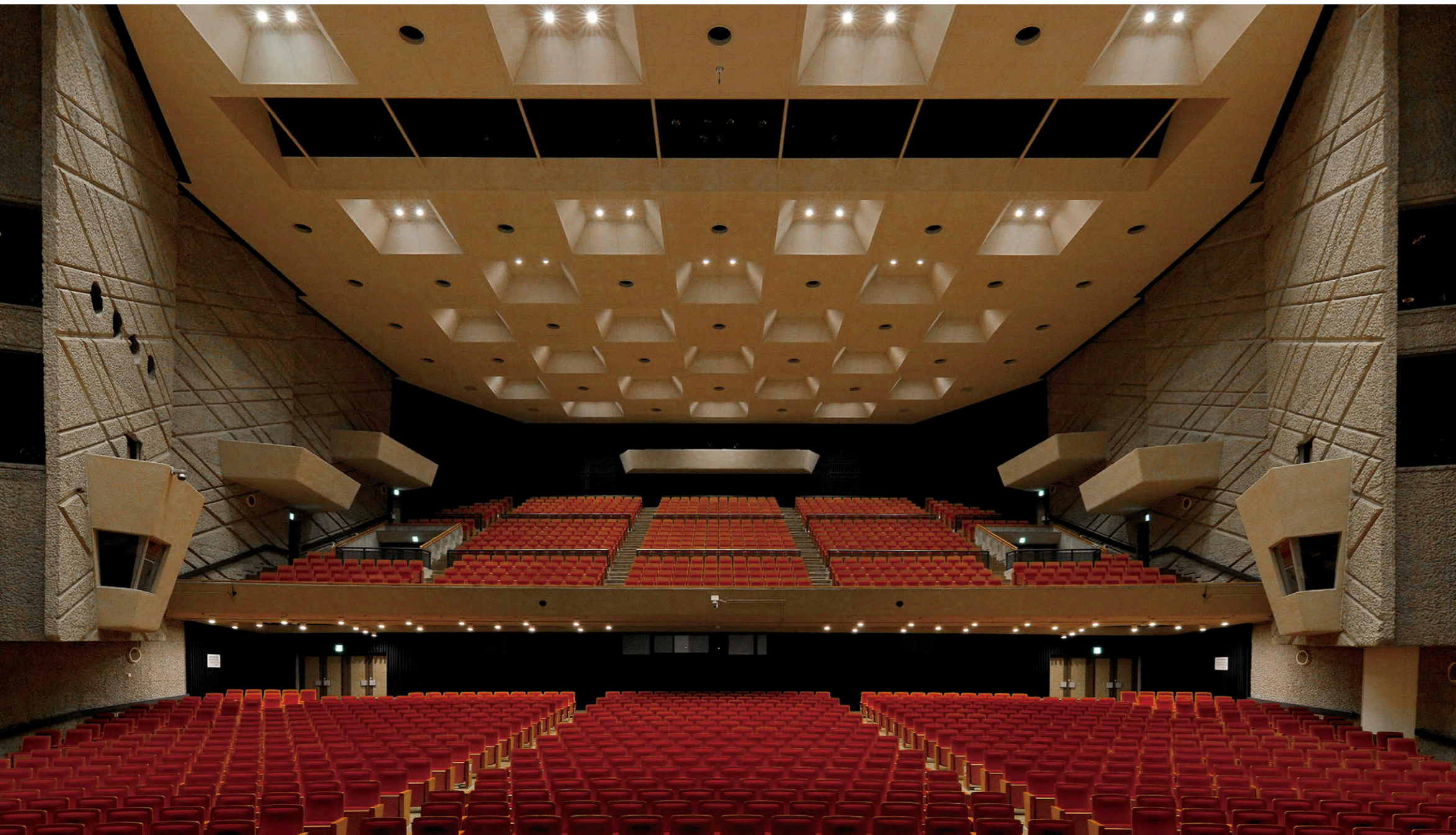


2016年4月の熊本地震により被災した熊本市市民会館大ホールが、震災復旧工事を終えて2018年1月、待望のリニューアルオープン。新装された大ホールの天井は熊本城本丸御殿の天井をイメージした意匠となっており、客席ベース照明として採用されたシアター用LED照明が、建築と一体化した上質な光空間を創り上げています。

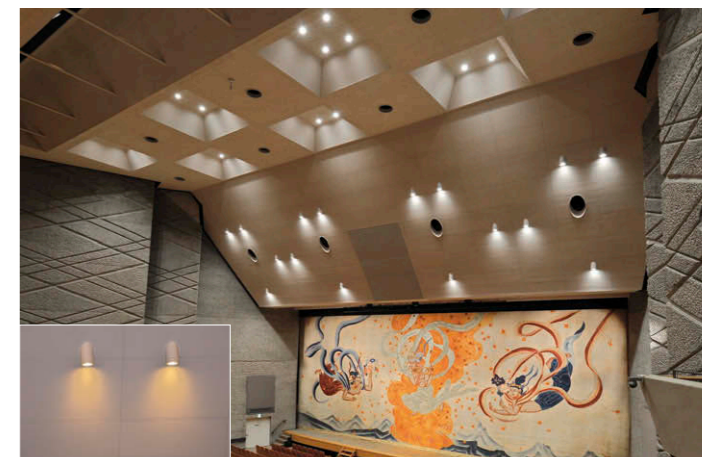
建築家佐藤武夫氏の設計による熊本市市民会館は、1,600人の収容能力を持つ、ジャンルを問わずさまざまな催しが開かれてきた熊本を代表するコンサートホール。1968年の開館から約半世紀にわたり、地元エンターテインメント拠点として親しまれてきました。2016年4月の熊本地震によりホール天井が破損するなど大きな被害を受けて休館しましたが、大規模復旧工事により、耐震性向上に加え音響や照明の機能が強化され、2018年1月に再スタートを果たしました。



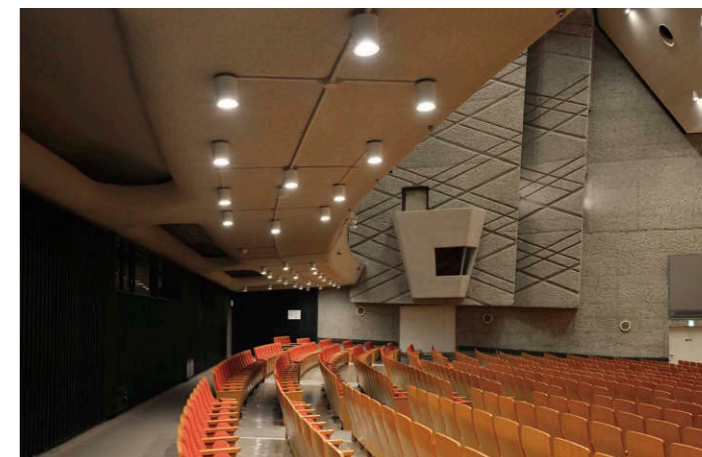
【物件概要】  
所在地：熊本市中区桜町1番3号  
延床面積：9,197m<sup>2</sup>  
構造・規模：鉄筋コンクリート造・地上4階地下1階  
施工主：熊本市  
設計：株式会社総合計画  
施工：建築/西松建設(株)  
電気/清水電気工業(株)  
改修：2018年1月



①客席後方より舞台を望む 4灯1組で客席天井に表情をつくるLEDシアター用ダウンライト



②客席最前部の照明 傾斜天井面にも周りの空間を広く感じさせるLEDダウンライトの光



③1階後部の照明 2階席下の1階天井にはLEDライトエンジンダウンライト直付シーリングを計40台配置

### LEDシアター用ダウンライト6000シリーズが、華やかかつ厳かな劇場空間を創出

被災する前は吊り天井構造だった大ホールの天井復旧工事では、重量が軽い天井材が使用され、工法も耐震性の高い直張り工法が採用されました。デザイン的にも熊本城本丸御殿の天井をイメージした意匠に変更され、格子状に折り上げた天井凹面に照明器具を組み込んだ設計となっています。

ホール天井に採用された照明器具は、0～100%の滑らかな調光が可能な電球色のLEDシアター用ダウンライト6000シリーズ。最大高さ

16.5mの1階客席上部には4灯1組で、2階～4階の後方客席には2灯1組で配置され、天井意匠と調和した照明設計となっています。また1階客席最前部の傾斜天井には、16灯が傾斜角55度に合わせた化粧枠にて設置され、傾斜面に光のアクセントを生み出しています。

客席の平均照度は基本設定の60%調光時で260～300ルクスが確保され、復旧前よりも明るさ感が向上。公演プログラムやパンフレットなども十分に読める照度となっています。

④大ホールの照明風景 格子状の折り上げ天井に組み込まれたLEDシアター用ダウンライト6000シリーズが上質な光空間を創出



① LEDシアター用ダウンライト6000シリーズ  
② LEDライトエンジンダウンライト直付シーリングランプLEDライトエンジン2000調光

| 主な掲載器具一覧 |                           |                   |    |             |
|----------|---------------------------|-------------------|----|-------------|
| 設置場所     | 器具名(品番)                   | 形名                | 台数 | 備考          |
| 大ホール     | ① LEDシアター用ダウンライト6000シリーズ  | AL-LED-ON-6-2DS   | 94 | 消費電力：93 W   |
|          | ② LEDライトエンジンダウンライト直付シーリング | LEDG-16401(W)-LD9 | 40 | 消費電力：18.6 W |